第42回 日本基督教団総会
2022年9月27日（火）～29日（木）

速報

42 Kyodan Soukai Sokuho
No.3
2022.9.29
14:30

† 総会速報発行委員会 発行

常議員決まる

総会2日目午後、常議員選挙が行われた。投票方法を巡っては半数連記を求める議案第57号を否決した上で全数連記によって行われた。選挙結果は以下のとおり。

【教職】

投票総数4732票、有効投票数4642票、無効投票数90票（内白票85票）

武田真治……180票
田口博之……179票
岡村　恒……178票
篠浦千史……178票
髙橋　潤……178票
藤掛順一……177票
大友英樹……176票
東野尚志……176票
服部　修……174票
田中かおる……173票
勇　文人……167票
宮本義弘……167票
菅原　力……158票
久世そらち……154票

以下補充員

松井　睦……143票
小西　望……140票
梅崎浩二……137票
柴田もゆる……133票
片岡謁也……131票
古谷正仁……129票
今井牧夫……128票

【信徒】

投票総数4394票、有効投票数4053票、無効投票数341票（内白票314票）

河田直子……186票
望月克仁……186票
高橋嘉男……184票
守安久美子……184票
八嶋由里子……184票
佐久間文雄……183票
豊川昭夫……181票
遠矢良男……179票
稲松義人……178票
奥山盾夫……177票
衞藤慧志……174票
宮本　修……168・5票
中嶌暁彦……165票

以下補充員

齋藤仁一……138票
土井しのぶ……135票
金子直子……130票
北村大昂……127票
斉藤圭美……126票
鈴木惠美子……125票
冨増献児……124票

機構改定に関する諸議案

二日目の議事の最後のところで上程され、提案理由が読み上げられていた教団機構改定に関する諸議案が三日目の冒頭で議されることになった。

まず、第40号議案の修正案が議場に配布、提案された。これは、40号議案中の2の文章の最後に、「合同教会の豊かさの尊重」という文言を加えるものである。

その後、第53号議案である『教団機構改定』の議論を直ちに凍結する件」から議論が開始された。凍結後の対案などはあるのかという質問があり、教団総会の規模縮小などが必要であることはその通りだが、沖縄宣教連帯金の問題が解決しない限り、機構改定の議論を進めるべきではないということだとの応答があった。いつまで凍結するのかという質問に対し、沖縄教区との関係が改善されるまでという理解であるとの答えもあった。

凍結とは経済問題の議論も凍結するということかという問いに対し、機構改定に関する議論の凍結という意味であるということで、財政面等については議論をすべきと答えた。

「議論の場である総会が、議論の凍結を決定するのは認められない」との反対意見、「沖縄に痛みを負わせることを終わらせるのが先決で、いったん凍結することが大切」との賛成意見があった。採決の結果、議案は少数否決となった。

その後、40号議案の修正議案含め40、46、47、59号議案について、質疑から討議という順で議事が進められたが、沖縄教区不在の状況で、機構改定はすべきではないという点についての是非が焦点となった。

40号議案の修正案に対し、「全体教会としての一体性の確立」と「合同教会の豊かさの尊重は対立しているのか」という質問に対し、方向性として一体、一致を目指すのはその通りだが、さまざまな背景のある教会の豊かさを尊重するということで、対立ではなく、両方とも大切にという意図だとの答えがあった。

46号議案について、教団総会で決議をしないというのは、常議員会では議論は為すべきだが、総会での議決はすべきではないという意味であるという説明が加えられた。

59号議案について、「愛のある」の「愛」とは何か、という問いに対し、様々な立場、すべての伝道所、教会の意思を反映し、それらが切り捨てられないという意味であるとの答えがあった。

40号議案原案については、「そもそも今回機構改定案が総会に提案できなかったのは常議員会の責任。その常議員会が、この41号議案を提出するのは理解できない。ここで目的と課題が確認されたらそれに拘束されてしまう」という反対意見、「全国1700余の伝道所、教会での全体教会であり、また、世界の教会を踏まえた全体教会という理解の中でこの議案には賛成」という意見があった。

また、「教区のスリム化を教団から求められるのは心外。このままでは機構改定に必要な3分の2の賛成を得るのは不可能だ」との反対意見もあった。

採決に入り、46、47、59、40号修正案が少数否決となり、40号議案の原案が賛成多数で可決となった。

朝の祈り会　「救いの出来事の後」

戸田奈都子牧師（川内教会）によるショートメッセージ

ルカによる福音書15章11～32節

主イエスが語られる神の国のたとえ話は私たちの心をざわつかせる。神の国の価値観に衝撃を受け、神の赦しの限りなさに圧倒される。同時に私たちが暮らす社会は、神の国からあまりにも離れている。このギャップの只中にこそ主イエスは来てくださった。

放蕩息子の物語で、弟の帰りを待つ父とは神さまのこと。私たちは自分を弟に重ね合わせる。神さまが私を見つけ、一直線に駆け寄って来られる。救いは神さまのもとに自分の力でたどりついて得られるのではない。神の方から来てくださる。私たちは神さまの御腕の中で、ここが自分の帰る場所だったのだと安堵する。教会はこれを救いの出来事と呼んで来た。

私たちは自分をこの物語の兄に重ね合わせる。父のもとで一生懸命働くことが生きがいだった兄は、弟が帰って来るまでは幸せだっただろう。父が弟の帰りを待っていたことを知っているし、兄として弟の安否を心配していたかもしれない。実際に弟が帰って来ると彼の心はかき乱される。神の赦しの限りなさにどこか納得できず、苛立つ。

私たちの暮らす社会は、この数年ますます寛容さを失い、兄の反応を良しとする。自分の中にもその思いがあることにうんざりする。この物語は、神さまが弟と兄との間に、どちらをも愛する親として立ち続けていることを伝える。弟の時と同様、父は自分から兄に近寄り語りかける。神の国とこの世とのギャップの間に立ち続け、辛抱強く働くキリストの姿のようである。

私は普段、１６０人くらいの子供たちとその保護者、50名弱の職員と共に過ごしている。礼拝で聖書の物語を話し終えると子供たちは「それでその後どうなったの」と聞く。19節に「雇い人の一人にしてください」とある。弟は神の家の仕え人となった。教会の仕事は仕え人として喜びの祝宴を準備すること。

私は50年の間に10の教会に養われて来た。教団って良いなと思う。どこに行っても教会がある。川内教会で若い人を送り出す時、「大丈夫、そこには必ず、教団の教会がある。都会の教会は必ずあなたを受け止めてくれる」と言って泣きながら送り出す。地方教会の涙を都会の教会は知っているか。

合同教会とは何と難しい共同体なのだろう。みんな違ってみんな良いのだけれど、共同体というのは共通点を見出すことを欲する。私なりに共通点を考えて見た。ここにいる全員が、物語の弟のように神さまに抱きしめら、神の仕え人として、後の物語を生きている。

教会は、集まる人々を兄弟姉妹と呼んで来た。友達や仲間やパートナーは選べるが姉妹兄弟は選べない。考え方が違うし、お互いに素直になれない。喧嘩もするが翌日は一緒にご飯を食べたりする。同じ方に養われ、抱きしめられ、やがて帰る場所も一緒。これまでと同様、救いの後の物語を生きて行こう。未だこの世界は神の国と程遠い。しかし、神なきところに神を見て、キリストが先んじて働いていることを証して行こう。全国に散らばって、教団を形作る兄弟姉妹を思い浮かべながら日々を重ねて行けたらと思う。

二日目の議事

総会二日目は、逝去者礼拝から開始された。説教者は小林よう子牧師（八戸小中野教会）。また、秋山徹総幹事が、宣教師含め２８１名の逝去者の名前を読み上げ、議場は逝去者への思いを一つとさせた。

その後、財務関連の報告が４年分なされた。財務関連報告中、数字が合致していない点があることが報告されたが、そのことの問題性を指摘する意見があり、それに対し、今後の財務審査や監査にゆだねたいと委員長、議長から応答があった。

また続けて、兵庫教区提案の『「沖縄宣教連帯金」に関する件』も上程された。これまで減額された連帯金の総額７６０万円を現予算に加えて予算化することを求める議案であり、沖縄教区の痛みを共有する趣旨の議案でもある。提案理由の中で、第33回教団総会における教団名称変更議案の審議未了廃案について触れられている点について、当時の議場の様子が反対賛成それぞれの立場から語られた。採決の結果、議案は少数否決となった。

財務関連に関しては、財務審査委員会に回付することが財務関連議案すべてについて採決の結果、賛成多数で可決した。

常議員選挙直前に、神奈川教区からの議案である「日本基督教団総会における常議員選挙の投票方法を、無記名半数連記に改める件」が上程された。反対意見として「全数連記で選出された現常議員会でも有益な議論がなされている。また、同じ信仰で教会をたてるためには全数連記が必要」という意見が出され、賛成意見として「神の御心ではなく人間の思いを気にする全数連記という投票行動には反対。様々な人を選出するためには半数連記が有益で、時代に見合っている」という意見が出された。採決に入る直前、無記名投票での採決を求める声があり、議場の５分の１以上の賛成により無記名投票で採決が実施され、議案は少数否決となり、常議員選挙は全数連記で行うことになった。

その後、部落解放センター、出版局、年金局の各財務関連議案が議され、それぞれ財務審査委員会への回付を含め承認された。これらの議案については教団新報本記に掲載予定。

お詫び・訂正

速報№２、新副議長選出の記事２段目２～４行目「異なる意見の人たちの中で、別意見の代表者としての立場を痛感した」を「責任ある立場にある者は、意見の異なる人たちをも代表しなければならないことを痛感した」に、お詫びして訂正いたします。

総会速報について

「総会速報」を発行いたします。この速報はインターネットでもご覧になれます。

URL　http://uccj.org